

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 中間評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	伊万里市立東山代小学校
1 前年度 評価結果の概要	・校内研究や職員研修によって教職員一人ひとりが資質の向上に努めたことが、児童の学習意欲の向上につながった。また、算数科では、CRT検査において前年度より8.5ポイントの改善が見られている。来年度も引き続き個別最適な学びと協働的な学びのある授業づくりの工夫を行うことで、さらに児童の学習意欲の向上を図りたい。 ・今年度も「心の教育」や「健康・体づくり」については、概ねアンケートでの目標を達成した。しかしながら、不登校児童や相談室対応児童、保健室来室児童など、支援を要する児童の数は増える一方である。児童や家庭への支援、SC、SSW、関係専門機関との連携をさらに密にしていく必要性を感じる。 ・来年度も特別支援教育の充実や業務改善への取組を進めていくことで、さらなる学力の向上に努めていきたい。また、複合施設の強みを生かし、地域との連携をさらに深め、コミュニティ・スクールとしての学校づくりを充実させていく。

2 学校教育目標	思いやりの心をもち、意欲的に学ぶ児童の育成 ～ 人にやさしく、真面目にがんばる子！ ～
----------	--

3 本年度の重点目標	①学力の向上：やる気を引き出す指導の工夫 家庭学習の習慣化 基礎・基本の定着に向けたスキル学習等の提示、実践 家読の推進 ②豊かな心の育成：自己有用感を育む学級経営 心をゆさぶる道徳教育 仲間づくり 感動体験活動 郷土愛を育む活動 ③健やかな体の育成：体育の充実と運動の生活化 保健指導の充実と食育の推進 ④特別支援教育の充実：一人ひとりの実態の把握 集団における授業の工夫や合理的配慮
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○児童全員が主体的に参加する授業の実践	○児童アンケートで「授業が楽しい」と肯定的な回答をした児童の割合85%以上	・個別最適な学びと、協働的な学びのある授業づくりの工夫を図る。	B	・多くの学級で、自力解決場面や練習問題に取り組む場面で個に応じた指導をすることができたので、児童の意欲の向上が見られつつある。 ・学年のレベルに合わせた自主学習に全校で取り組み始めた。引き続き取り組み、主体的に学ぶ意欲を高めていきたい。					・研究主任 ・研究副主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童アンケートで「思いやりのある行動をしようとしている」と肯定的回答をする児童の割合85%以上	・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・「ふれあい道徳」や平和集会、人権集会等の学校行事の充実	B	・夏季休業中に、講師招聘による道徳科における授業づくりの理解を深める研修を実施した。 ・9月10日に、ふれあい道徳を実施した。事前に道徳通信を配付したり、参観後にアンケートを行ったり、家庭と学校が一体となって子ども達を育てることができるようにした。					・道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ防止等(防止のための取組、事案対処等)」について組織的対応ができています」と回答した教員90%以上	・心のアンケートを実施し、児童の実態把握といじめの早期発見を行う。 ・気になる児童についての情報共有を行うとともに、毎月情報交換会を実施する。 ・SC、SSW、関係専門機関との連携を図る。	B	・定期的な心のアンケートの実施で、児童の実態把握や問題の早期解決につなげた。また、6月と10月に教育相談期間を設定し、児童全員が担任と話す機会を設けた。 ・必要な時に情報共有できている。今後は、定期的に時間をとって情報共有していきたい。					・人権・同和教育担当 ・生徒指導担当 ・教育相談担当
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれる」と回答した児童85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90%以上	・6年間を通して、専門の各講師を招いて様々な体験活動を実施する。 ・各種体験活動では、児童による活動の見通しと体験した学びの振り返りを充実させる。	B	・専門の講師を招き、子どもたちが体験を通じて夢や目標を持てるように取り組んでいる。6年生は、県立宇宙科学館の方に来ていただき燃焼爆発実験ショーを体験したり、アスリート派遣による体育授業では、元Wリーグ川面選手より直接指導してもらったりした。今後、4年生は、野鳥の会の方を招いて、座学と野鳥観察を行う予定である。また、ものづくりマイスターを招いて、万華鏡づくりを行う予定もある。					
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○「早寝・早起き・朝ごはん」を奨励し、保護者アンケートで肯定的回答をする割合90%以上	・給食担当による講話(放送)や担任による授業を通して、望ましい生活習慣の大切さを理解させる。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の励行を保健だよりや給食だよりで年間を通じて行う。	B	・給食担当による放送を通して、望ましい生活習慣の大切さを伝達した。また、栄養教諭が1年生に対して3つの栄養素についての授業を行った。 ・6月の食育月間では、食育だよりにて朝ごはんの大切さを伝えた。					・給食担当 ・養護教諭 ・栄養教諭
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○交通事故や事件に巻き込まれることを防ぐとともに、性に関する指導の授業を発達段階に考慮して行う。	・交通安全教室や避難訓練を行い、事故防止に努め、防犯意識を高める。 ・「性に関する年間指導計画」に基づき全学年で性教育を行うとともに、講師を招いた講演会を開いて理解を深める。	B	・低学年への交通安全教室や、複数の避難訓練を計画的に行うことができている。 ・「性に関する年間指導計画」に基づき、養護教諭が授業を行った。昨年同様、今年度も助産師を講師に招き、5年生に命の授業をしていただいた。					・生徒指導担当 ・養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日を設定する。 ・管理職または職員による業務改善を進め、全職員の意識改革を図る。	B	・全職員の時間外在校等時間平均は約27時間で、前年度の同時期より約1時間減っている。 ・職員の年次休暇取得日数平均は9日である。 ・全職員が早めに退勤したり年休を取得しやすい環境作りを行ったりしていきたい。					・教頭 ・業務改善委員会
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○児童の実態を把握し、一人ひとりに応じた対応を行ったと回答する教員90%以上	・特別支援教育に関する校内研修等の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有を密に行う。 ・関係専門機関との連携を図る。	B	・児童理解とよりよい支援に生かすことにつながるよう、講師を招聘しての研修会を実施し、教員の意識を高めた。 ・児童の気になる行動についてケース会議を早めに関き、組織的な対応を考えたり支援を実施したりするよう心がけている。また、保護者との連絡を密にしながら、その子に合う支援を考え対応している。					・特別支援コーディネーター

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○教職員の資質向上	○教職員の授業力向上	○児童アンケートで「授業が楽しい」と肯定的回答をする割合を85%以上、保護者アンケートで「学校は子ども達の学力向上に取り組んでいる」と肯定的回答をする割合を90%以上	B	・職員同士が切磋琢磨できる環境づくりとして、相互授業参観ができるシステムを設定する。 ・学年やグループ間の連携を図り、授業づくりについて日ごろから相談しやすい環境をつくる。	・授業参観月間中に、ほぼ全担任が1回以上授業を公開・参観することができた。今年度は特別支援学級の公開が増えた。 ・授業参観月間での意見交換を通して、普段から教材研究についての情報交換がしやすい環境ができつつある。	・		・	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任	
○開かれた学校づくり コミュニティ・スクール	○地域と連携した体験活動の推進 ○積極的な情報発信	○地域の人材を活用した体験活動を通して、地域との連携を深める。 ○保護者アンケートで肯定的な回答をする保護者90%以上		B	・コミュニティセンターや地域学校協働活動推進員と連携し、体験活動の充実を図る。 ・学校だよりや懇談会等を活用し、学校の取組について知らせる機会を設ける。	・1・2年生では芋苗植え、3年生では野菜集荷センターや梨園果樹場の見学を行うなど、地域学校協働活動推進員と連携した活動を行った。 ・学校だよりや学級だより、ホームページ等を活用して情報を発信している。	・		・	・教頭 ・教務主任

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------